

特別講演 1

「在宅ホスピスケアの現状と未来」

医療法人社団爽秋会 岡部医院 院長

岡部 健 先生

今回、医療保険、介護保険の改正により、在宅緩和ケアを実践し、在宅死を支える財政、社会基盤は整いつつある。即ち、今まで、社会制度の不整備で生まれてしまった、在宅死のニーズギャップを社会制度は支えうる要件を満たしてきたことになる。しかし、制度ができてきても、地域の中での緩和ケアを普及させるための中身、整えられ始めた社会制度をどのように使って、質の高い、普及性のある緩和ケアの中身を構築するかが最大の問題点となる。緩和ケアも施設ホスピスのモデル形成は行われてきたが、在宅ホスピスのモデル形成は端緒についたばかりである。施設モデルから、在宅モデルに大きく舵を切り返えし、在宅緩和ケアを支える医療、介護、地域文化の問題を再整理し質の高い普及モデル形成しなければならない。その中核に位置するのが、在宅療養支援診療所ということになる。病院中心の緩和医療から、QOL 中心に在宅緩和ケアへの今後の方向性を示したい。